

感謝の気持ちで34年。

私達は親身になっての「まごころ施工」と、いつも「おかげさま」の心根をもった家まもりに徹します。
家まもりとは、住む人の身になって大切に家を守る事を仕事とします。

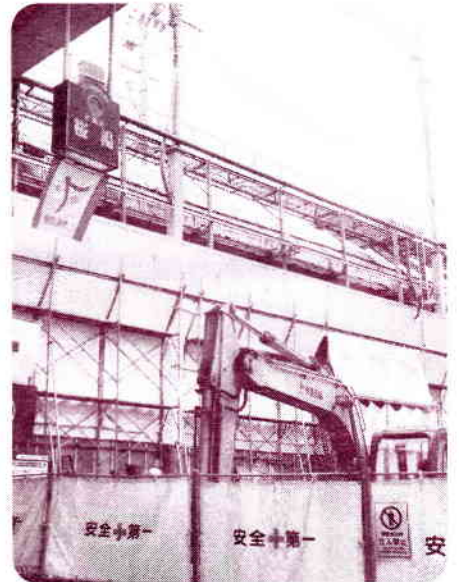
新入社員らしい人達がお昼のお弁当を買いに、コンビニに入っ
てこられる姿を見受けます。4月も1ヶ月が過ぎ、心待ちにされる
5月の連休ももうすぐです。

朝夕の体調管理が大変だった今年の春、皆様お変わりありませ
んか。お伺い申し上げます。

先日久しぶりに寺町通りをぶらり歩いてきました。「あら、こ
こに桜湯があったのに」と思いよく見ると看板だけがさびしく
残っています。ホテル建設の工事中なのです。京都人であればこ
の桜湯はほとんどの人はご存知でしょう。町のお風呂屋さんには
なかった電気風呂がここには早くからあり、子供の頃に親戚
の人と一緒に来た思い出があります。そんなちょっとオシャレな
お風呂さんがなくなり、ホテルになるのです。商店街の経営者
も高齢化で後継者がなく店をしめられると言う現状を多々目に
します。生活パターンが変化する中、流れが早すぎてついていく
のが大変と感じるのは私だけでしょうか。ゆったりとした気持ち
を持てた時「あーしあわせやなあ」。こんな宝物を下さった神様
に感謝をしている自分がいます。

どうぞ皆様もお健やかに過ごして下さいませ。

つかもとあけみ



こんな看板も添えてありました。なつかしいですね。



どんな事でもお気軽にご相談下さい!

家まもり安心サービス



介護リフォームも
おまかせ下さい。
二級建築士の塚本康仁です。

先日来よりチョットした仕事で申し訳ないのですが、頼めますかというお電話を数件頂きました。

(以前からの得意先さんです) どんな事でもお気軽にご相談下さい。

防犯のご相談、介護のご相談等が増えてきました。

今まで経験してきた事が役に立てばうれしい事です。
未経験の事でもチームつかもとと言う力強いパートナー
と共に勉強させてもらいます。安心して頼せて頂ける様
に精進して参ります。

塚本康仁

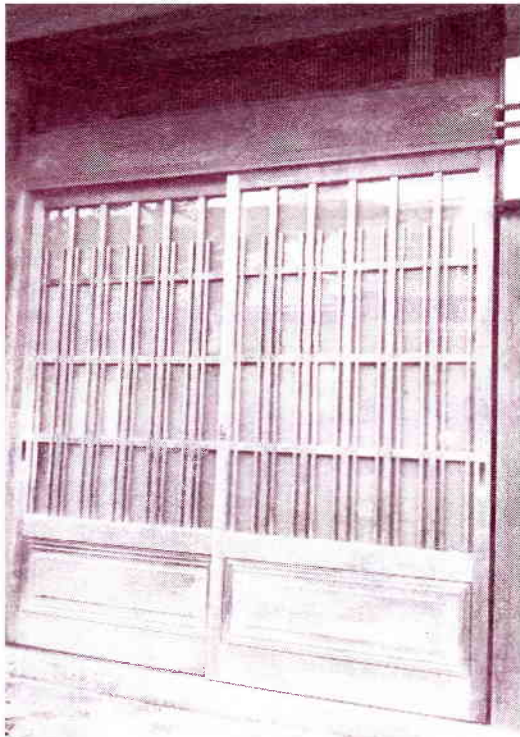
給湯器も、10年経過すると温度ムラ
が出やすくなります。大きな音も
取り替え時期のサインと思われ
ます。
給湯器本体半額にていつでも
ご提供しています。

玄関がイメージアップ

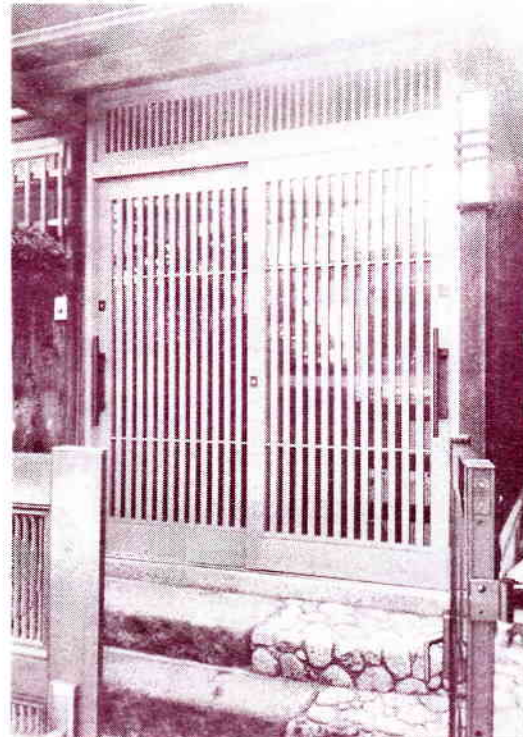
洛西ニュータウンにお住まいの1様の玄関引戸を取り替えさせて頂きました。築年数も30数年で大切なカギがかかりにくくなり、思いきって木製建具からアルミサッシへと交換されました。これで戸まじりができ、安心ですとのご感想でした。

最近玄関引き戸や玄関ドアの取り替え工事が増えています。通風ドアや引戸等の商品が人気があります。色も木目調等レパートリーが豊富にそろっています。

玄関はお家の顔であると同時に安全と安心の商品だと思えます。ショールームで現物を確認し選定される事をおすすめします。



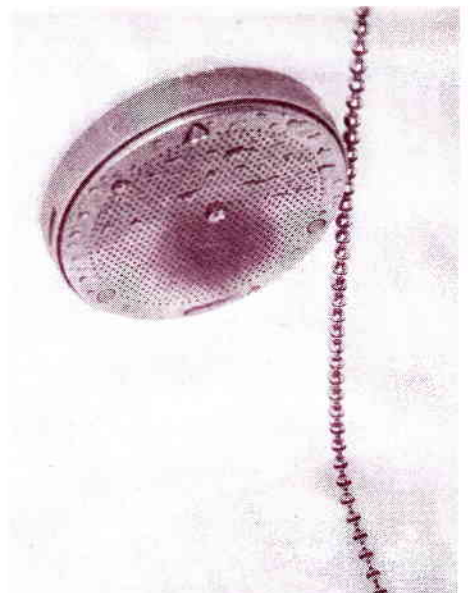
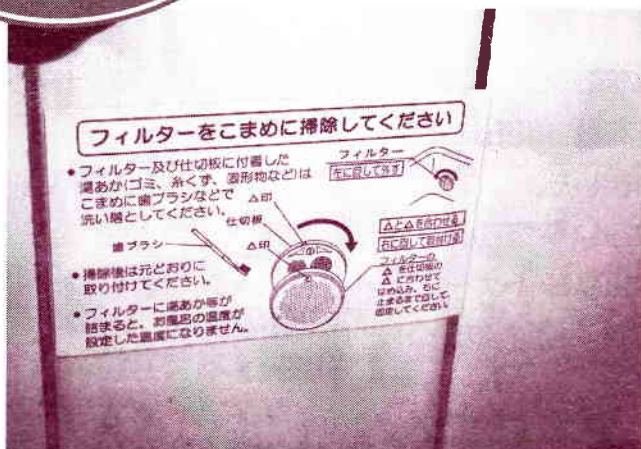
施工前



施工後

お掃除
忘れずに

浴槽の循環パイプのフィルターをこまめにお掃除して下さいね。そのままお掃除をしないと設定温度に変化がある事がありますので。



4月18日(土)~19日(日)の2日間、私が所属している(一社)京都府建築士会にて開催された国内研修旅行に参加してきました。今回の見学先は、香川県・高知県の両県に見学先を設定し、香川県では木造と鉄骨造・鉄筋コンクリート造との混構造等、木造の新しい可能性にチャレンジされている六車建築設計事務所、六車誠二氏の作品を見学し高知県では地域産木材を活用した「牧野富太郎記念館」や「はりまや橋商店街」、「竹林寺納骨堂」や「高知県立坂本龍馬記念館」を見学してきました。この研修旅行について、私が担当を受け持っている担当会の事業ということや、企画段階から関わっていたこともあり、私自身大変興味深い内容での催行になりました。通常の業務では木造建築が主となっておりますが、混構造や化粧材への地域産木材の採用など、純木造にとられない木材活用の手法を学ぶことも出来ました。

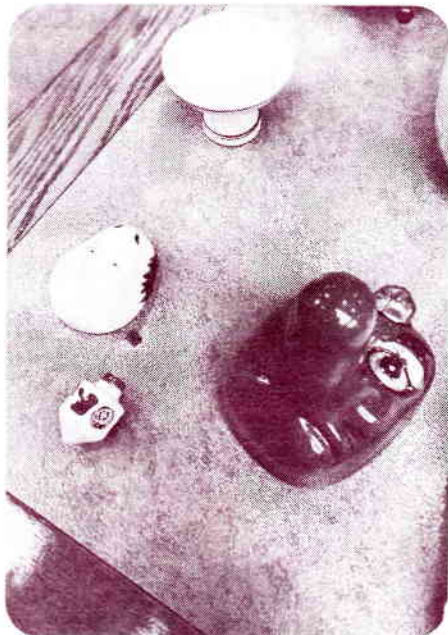
旅行の1つの楽しみ「食」についても、香川県では高速のサービスエリア内で楽しめる、全国でも珍しいセルフのうどん店「津田の松原SAの讃岐うどん」、高知県では(公社)高知県建築士会の方々に懇親会の場を設けて頂き、「わら焼き鯉のたたき」や「うつぼのたたき」を頂いてきました。また、お酒を頂く場での土佐流のもてなしとして、可杯(べくはい)という「おかめ」「ひょっとこ」「天狗」に似せた盃を用い、こまに当たった人が選ばれた盃でお酒を飲み干す「べろべろの神様」(正式名称は別にあるかもしれませんが)や、お盆の上に参加人数分の盃を伏せて並べ、その内の1つに菊の花を隠し、見事当てた人が当てるまでに開けた盃の分お酒を頂くことになる「菊の花」といったお座敷遊びも体験してきました。

京都から高速道路を使用して300数10キロ、日帰りでは往復するには距離がありますが、1泊でも宿泊すれば比較的行きやすい位置関係かと思えます。新幹線やJR・高速バスと行った公共交通機関を利用しても、4時間掛からずに到着することが出来ます。

これからお出掛けするには良い季節になっていきますので、旅行の候補になさるのも良いかと思えます。



はりまや橋商店街



べろべろの神様の可杯



牧野富太郎記念館

康^{やっ}ちゃんのリョウキの旅



知ってますか。こんな事

これから気温が上昇すると、アミ戸が活躍する季節となります。
戸を開け閉めした時、コバエや蚊が入ってきます。
そんな事を予想してスプレーしました。
(虫コナーズ窓ガラス・アミ戸用)
小さな虫は入ってきません。
お客さんから教えてもらい重宝しています。



毎日こんな表情になれたらいいなあー
お客様のお宅の置き物を書かせてもらいました。
毎日ニコニコすると幸せが訪れるかも？

つかもとあけみ画

先日
ネパール教育支援活動：学生レポートを
藤原先生から送られてきました。
その一部をご紹介します。

ネパール教育支援活動：学生レポート

①活動を通じて、もの見方がどのように変わったか？
②活動を通じて、自分自身がどのように変わったか？



と出ませんでした。外に出れば、電線が目の高さまで垂れ下がって絡まっていたり、道路脇にはたくさんゴミが捨てられていて悪臭を放っていたりしました。道路は西側で、車やバイクは真っ黒な排気ガスを出して走っています。交通マナーも悪く、車やバイクはクラクションを鳴らしながら走っていました。ネパールで過ごした二週間は、日本では有り得ないことの連続でした。しかし、途上国のネパールではこれが「当たり前」でした。ネパールに行ったことで初めて、今まで自分がどれだけ便利で贅沢な暮らしをしていたか、ということに気が付きました。



訪問先の学校では、子供たちや先生方、地域の方が長い花道をつくって待っていてくれました。綺麗なお花の首飾りや、両手では持ち切れないほどたくさんのお花を手渡してくれ、私たちを温かく迎え入れてくれました。子供たち一人ひとりに文房具を手渡しすると、少し照れながら受け取ってくれた子供たち。受け取ったノートや鉛筆を大切に眺めていました。正直、初めのうちは子供たちの笑顔に出会うことが難しく、まるで私がプレゼントしたような気持ちになり、優越感に浸っていました。でも、この活動はたくさんの方々の支援のお陰で成り立っているものであり、自分たちは活動全体の「美味しいところだけ」をやらせてもらっている。そう活動先に言われて初めて、この活動の本当の姿が理解できました。夜のミーティングを通じて、一人ひとりの目を見て手渡しすることが大切だと理解できました。藤原先生は、全ての教室の子ども達に対して「文房具は塚本明美さんやライオンズクラブの方々、徳尾中学の生徒さん達からのプレゼントだ」ということを英語で伝えていました。私たちが活動の全てに意味があることが分かりました。私たちが届けにきたのは「文房具」ですが、本当に届けなければならぬのは、その文房具に込められた「想い」だということも理解できました。同時に、私たちにとってはただの文房具かも知れませんが、ネパールの子供たちにとっては宝物になるということにも気が付きました。教室には明かりがなく、窓には悪臭が入っていませんでした。机板はでこぼこで、簡単なつくりの椅子や机には大きな穴があいているものもありました。衛生状態が悪く、ハエがたくさん飛んでいる狭く暑い教室の中でも、キラキラとした笑顔で誇りのと文房具を見せ合う子供たち。その姿を見ていると心が痛みました。私はヒカビカのランドセルも筆箱も「当たり前」に持っていました。でも、学校に行って勉強できて幸せだと感じたことはありませんでした。今から考えると、自分自身が以前に経験者になったのが分かりました。そして、自分自身に腹が立ちました。

今回の活動を通じて、今まで暮らしてきた「日本」がどんなに恵まれているかを改めて知ることが出来ました。「当たり前」だと思っていたことは、とても「有り難い」ことだったのだと気が付くことが出来ました。

②活動を通じて、自分自身がどのように変わったか

私がこの活動に参加したのは、「貧しい国の恵まれない子供たちの為には、自分も何かして

♥ 皆様方の心がネパールに届いています。ありがとうございます。♥